



11月22日(火)

## 野に咲く花

聖書朗読 Iペテロ 1:22~25

人はみな草のようで、その栄えは、みな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。しかし、主のことばは、とこしえに変わることがない。

Iペテロ 1:24~25 a

去年の春、野の花々は満開でした。まるで青いカーペットを丘に敷き詰めたようでした。牧草地は明るい黄色になり、道路脇は紫、赤、ピンクと色とりどりの花が咲きました。神様の素晴らしい創造物に改めて感銘を受けました。聞く耳を持つ人とその美しさを分け合いました。自分がその美しさがずっと続くように出来る力を持っていたらと願いました。しかし、もうすぐ花が散ってしまうことを知っていました。

その時に思い出したのが、この聖句です。『「呼ばわれ」と言う者の声がする。私は、「何と呼ばわりましょう」と答えた。「すべての人は草、その栄光は、みな野の花のようだ。主のいぶきがその上に吹くと、草は枯れ、花はしぼむ。まことに民は草だ。草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。』(イザヤ40:6-8)

人の栄光も短いものです。しかし、私は人々が永遠に生きるようにすることができると言う、御言葉の力を知っています。私は野の花ですが、人々に神の御言葉を分かち合いたいと思います。

讃美歌 502

祈り 父よ、路頭に迷う人々に心を向けられるようお助け下さい。あなたの言葉を届ける者となれるよう、お導き下さい。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジョイス・ハーディン  
テキサス州 オースティン

11月23日(水)

## 食べられてはならない

聖書朗読 Iペテロ 5:1~11

身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを探し求めながら、歩き回っています。

Iペテロ 5:8

ハイラム・W・スミスはホノルルで育ちました。11歳の時、水深約24メートル、約2.3キロに渡るハナウマ湾を泳いで渡ろうと決めました。

その日、波は荒く対岸を見ることは出来ませんでした。半分泳いだ辺りで溺れそうになりはじめました。何とか立ち泳ぎをしましたが、自分の体力が確実に衰弱しつつあるを感じていました。ところがその時、海面にヒレが近づいて来るのを見つけたのです。しかもサメのヒレのような大きなヒレです。差し迫った状況により、彼は力を取り戻し、無事対岸へ到着しました。

大人になってから、彼は『より良い自分になるためには』と言うタイトルの本を執筆しました。そこで、先程の経験を例に挙げて、この様に書いています。「私が気付いたことは、溺れる(試練に遭う)のは避けられないことだが、食べられて(破滅して)しまっはいけない、ということだ。」

ペテロもこの意見に賛同するでしょう。クリスチャンとして破滅してはいけません。サタンの餌食にならないよう、注意を払わなければなりません。

人生の試練に食われ尽くされてしまいたいと望む人は誰もいないでしょう。人生を前に進んでいく力を、試練により失ってしまうことを望む人もいないでしょう。イエス様を見失うと絶望感を覚えます。常にイエス様に目を向け、正しい道を歩めるよう意識しましょう。

讃美歌 280

祈り 父よ、永遠のいのちと言う素晴らしいあなたからの賜物を忘れずにいられるようお助け下さい。サタンなどの敵から私たちをお守り下さい。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

クライド・スリンプ  
アーカンソー州 コンウェイ

11月24日(木)

## 何か言って！

聖書朗読 I ペテロ 4:7~21

たとい自分の心が責めてもです。なぜなら、神は私たちの心よりも大きく、そして何もかもご存じだからです。  
I ヨハネ 3:20

報道でペンシルベニア州ダービーでの信じ難い事件の記事を目にしました。スーパーに買い物に行った女性が強盗をしようとしていたと思われる男から暴行を受けました。彼女は62歳にも関わらず元気だったので、男を撃退しました。背中を殴打されただけだと思いましたが、必要な物を買って、会計を済ませて帰宅しました。帰宅後、背中を殴打されたのではなく、ナイフで刺されたことに気が付きました。しかも、ナイフは刺さったままだったのです！警察の捜査により、スーパーのレジ係はナイフが刺さったままだったことに気が付いていて、また彼女が出血しているのにも気が付いていました。しかし、何にも言わなかったことが分かりました！

どうして言うべき必要がある時に、誰も何も言わなかったのでしょうか？面倒なことに巻き込まれたくなかったのかもしれませんが、怒りを買うことを恐れているのかもしれませんが、それかただ単に怠惰なだけかもしれません。

もし私たちが誰かの背に（記事の女性の背中にナイフが刺さっていたように）絶望、疎外感、迷いといった重荷がのしかかっていることを見て取るなら、私たちはその人に声を掛けてあげるべきではないでしょうか。私たちは彼らを助けてあげられるのです。恥ずかしがらず、怠惰にもならず、ただ気取らず素朴に他の人に気を配ることは大切なことではないでしょうか？

讃美歌 352

祈り 神よ、絶えることなく与えて下さる愛に感謝します。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

マイク・サンダース  
アイダホ州 ボイシ

11月25日(金)

## ほふられた子羊

聖書朗読 ヨハネの黙示録 5:1~14

彼らは大声で言った。「ほふられた子羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。」  
黙示録 5:12

作家のロバート・ファラー・キャポンは私たちが神様のことを説明しようとするなら、それはまるで牡蠣がバレリーナの説明をするぐらい不可能なことだと書いています。黙示録では、ヨハネは主の御座を見ることを許されました。そこで見たものは言葉で説明しきれないようなものでした。

ヨハネは神様が巻き物を手にされているのを見ました。そこには未来について神様の啓示が書かれていました。しかし、巻き物は固く封がされており、悲しいことに、開封して読む価値のある人間は居なかったのです。黙示録はここで終わりますか？終わりません。黙示録5:5には『すると、長老のひとりが、私に言った。「泣いてはいけません。見なさい。ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利を得たので、その巻物を開いて、七つの封印を解くことができます。』』と書かれています。

そしてここでサプライズがあります。前に立ち、巻き物を開いたのは獅子ではありません。へりくだった羊だったのです！屠られ、私たちの罪のために犠牲になった羊は生きていたのです！

ヨハネが私たちに伝えたかったのは、福音に込められた素晴らしい逆説（一見すると矛盾しているように見えるが、確かな真理）です。私たちの神様は、犠牲となることで勝利し、へりくだることで悪の力を克服し、一度は殺されたが、今は永遠のいのちを持たれた救い主なのです。

讃美歌 162

祈り 父よ、一人子である、イエス様を犠牲にして下さった愛に感謝します。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ケン・ダーラム  
テネシー州 ナッシュビル

11月26日(土)

## 何が神様にとって大切でしょう？

聖書朗読 出エジプト記 20:1~17

それでモーセは民に言った。「恐れてはいけません。神が来られたのはあなたがたを試みるためなのです。また、あなたがたに神への恐れが生じて、あなたがたが罪を犯さないためです。」  
出エジプト 20:20

色々な宗教があるこの世界で、人が仕掛けた宗教的な罠に掛からないようにするのは簡単なことではありません。また本当の神様、またその神様が私たちに何を望んでいるかを知ることでも簡単ではありません。教会史には、(人の手による)伝統と(神により与えられた)真理とを区別して真理に立ち返ろうとする改革が数えきれないほどあります。しかし人間は、改革をしてもまたすぐに(人の手による)伝統で真理を覆い隠してしまうのです。

イエス様の時代、神様により与えられた明確な命令(律法)は、ユダヤ人律法学者たちにより、整理され、解釈が加えられていました。ところが、その人の手による解釈(すなわち伝統)がいつの間にか律法そのものよりも大切にされるようになってしまいました。マタイ15:3では『そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「なぜ、あなたがたも、自分たちの言い伝えのために神の戒めを犯すのですか?』と書かれています。さらにマタイ23:23では『わざわざい。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは、はっか、いのんど、クミンなどの十分の一を納めているが、律法の中でははるかに重要なもの、正義とあわれみと誠実を、おろそかにしているのです。これこそしなければならないことです。ただし、十分の一もおろそかにしてはいけません。』とあります。

私達クリスチャンは、聖書に描かれたユダヤ人のようにモーセの法律により縛られている訳ではありません。しかし、十戒に込められた神の思いとは何なのか、考えてみる必要はあります。そうすれば御心が少し分かるかもしれません。神の義、憐み、私たちが持つべき信仰、これらは神様がお与えになった様々な律法が共通して指し示している神の御心と言えるでしょう。これらを私たちがしっかりと心に刻むことが大切なのです。

讃美歌 526

祈り 父よ、あなたが教えて下さった大切なことを私たちは忘れがちです。常に信仰を持てるようお助け下さい。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

スティーヴン・S・レムリー  
編集者

11月27日(日)

## 最初の選択

聖書朗読 創世記 13:8~18

これらの出来事の後、主のことが幻のうちにアブラムに臨み、こう仰せられた。「アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きい。」  
創世記 15:1

アブラム(後のアブラハム)はエジプトを離れた時、既にかなりのお金を持っていました。ですからアブラムがまずロトに(ロトが所有したい)土地を選ばせたということは、理解に苦しむことではないかもしれません。しかしお金持ちの人はよく「私は勤勉に働いた。だから、しかるべき物を手に入れられたのだ。甥も努力して、私のようになるがよい。」と言いがちです。

しかし、アブラムはその様なことは言いませんでした。聖書にはアブラムは素晴らしい人格者で、寛容な人であったと書かれています。同じようなことは今日でも起こるのではないのでしょうか。私の友達は、彼女とその夫の希望にピッタリの住宅を見つけました。不動産屋に購入したい旨を連絡しましたが、同じように購入を希望している女性がいました。不動産屋は「あなた方は同じ住宅の購入を希望しています。ここに紙が2枚あります。1枚は契約書、もう1枚はただの白紙です。これから、これら2枚の紙をくじ引きのように引いてもらいます。見事契約書を引いた人に家をお売ります」と言いました。その時、その友達はアブラムとロトの話を思い出しました。女性に向かって「お先にどうぞ」と言った所、大変喜んだ女性はくじ引きのようにした2枚の紙から1枚を引いたのですが、それは白紙(つまり、はずれ)の方でした。

いつもこのようになるとは限りません。しかし、「柔和な者は地を受け継ぐ」(マタイ5:5)とあるように、ロトが去った後アブラムは、神様から次のように告げられたのです。「『わたしは、あなたが見渡しているこの地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。』(創世記13:15)と。

讃美歌 508

祈り 父よ、他の人々を先に助け、「地を受け継ぐ」人となれるようお助け下さい。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

エミリー・Y・レムリー  
編集者